

学位論文における評価の考え方

医療科学専攻修士課程

本大学院医療科学研究科修士課程を構成する生体情報検査科学、医用量子科学、医用生体工学の3領域は、学問分野としては自然科学から社会科学に幅広くまたがっている。これらの領域は、それぞれに特徴ある歴史と発展があり、研究に対する手法と評価に対する判断の相違もありうるが、医療科学研究科として同一の基準で評価・判定されることが必要であると考え、以下にその基準となる考え方および評価項目を示す。

1. 評価基準の考え方

修士課程の研究では、課題とその結果だけを重要視するのではなく、研究課題に対する院生の取り組み方および結論を得るまでの過程で、いかなる考察がありどのように努力がなされたかもまた重要である。

修士課程の研究で期待されていることは、ひとつの課題を定め、目標を目指して研究を推進することであり、その際、課題または研究手法における新規性が重要であると同時に、研究を推進していく過程での努力も大切である。すなわち、研究の背景・意義への認識、研究に先立つ事前調査と他者の研究状況の把握、使用装置や材料ならびに手法に関する理解と取り扱い技術の習熟、自主的な研究推進、多面的で深みのある考察、研究の発展性や展望への洞察、他者への説明などに対する努力と倫理面への配慮である。

2. 評価項目

1) 修士論文の質に関する項目

- (1) 新規性（独創性）があること。新規性とは、たとえば、新しい現象・事実の発見、新しいまたは必要な技術・技法の開発、既存技術の改良、未解決問題の解決、従来の解釈・見解とは異なる所見、研究方法の斬新さ、研究の切り口（側面）の違い、特徴的な分析方法、などをさす。
- (2) 先行研究を理解していること（先行文献の調査・検索など）。
- (3) 課題に対する研究方法が適正かつ科学的であること。
 - ① 調査資料の収集方法あるいは実験の手法と手順
 - ② 調査資料あるいは実験データの分析方法
- (4) 論旨の展開に一貫性があること。
 - ① 課題と内容の整合性
 - ② 目的と結論の整合性
 - ③ 方法、結果、結論の整合性
 - ④ 結果に基づいた考察
 - ⑤ 結論の導き方（短絡や飛躍をしていないか）
- (5) 成果の帰納化を考えていること。
- (6) 必要な倫理的配慮がなされていること。

2) 院生の修士論文に対する姿勢・努力に関する項目

- (1) 研究課題の決定に際し、課題や文献を十分に理解したか。
- (2) 問題が生じたり、行き詰まったとき、解決できるように主体的に努力したか。
- (3) 結論を得るまでに十分な考察を行ったか。
- (4) 指導教員その他と十分な討論を重ね、独りよがりではない論理的・客観的な成果を得る努力をしたか。